

研究課題名	高度治療室における日本語版 Richards Campbell Sleep Questionnaire を用いた術後患者の睡眠の質とリスク因子に関する探索的調査-後ろ向き観察研究
研究の意義・目的	・高度治療室で手術を受けられて治療を受けられる患者さまは、傷の痛みや様々な苦痛に伴う症状に加え、手術で使用した薬剤の影響や医療機器の警報音なども影響し、睡眠の質が悪いことが考えられます。夜間に眠れないことは、それ自体が苦痛ですし、海外の調査では退院後もこの睡眠の質の低下が続く可能性も報告されています。私たちは、このような患者さまに、有効なケアを行いたいと考えているのですが、ほとんどの調査は海外で行われており、日本では睡眠の質の調査や睡眠の質が低下する悪影響となる原因が未だによくわかっていません。そこで、まずは、手術後の患者さまの睡眠の質や、睡眠の質に影響する原因を明らかにしたいと考えています。
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日 ~ 2027年1月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2023年9月~2023年12月に大阪公立大学医学部附属病院で手術を受けて高度治療室(High Care Unit : HCU)に入室された18歳以上の方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 年齢、性別、BMI、診断名、手術時間、米国麻酔科学会の身体状態分類システム、不眠症または睡眠薬の服用、睡眠時無呼吸症候群、手術中のレミフェンタニルの使用量、プロポフォールの使用量、痛み、嘔気、嘔吐、せん妄の有無、オピオイドの使用の有無、オピオイドの使用量、HCUと病院予後、HCU在室日数、在院期間、ドレーンの有無、入室した部屋情報、CRP、Hb、日本語版 Richard Campbell Sleep Questionnaire、睡眠が阻害された要因
試料・情報を利用する者の範囲	この研究は大阪公立大学医学部附属病院のみで行います。
試料・情報の管理について責任を有する者の研究機関の名称	公立大学法人大阪、大阪公立大学医学部附属病院 看護部 研究責任者 原田勇介
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学医学部附属病院 看護部 集中治療センター (担当者氏名) 原田 勇介 電話番号 : 06-6645-3100